

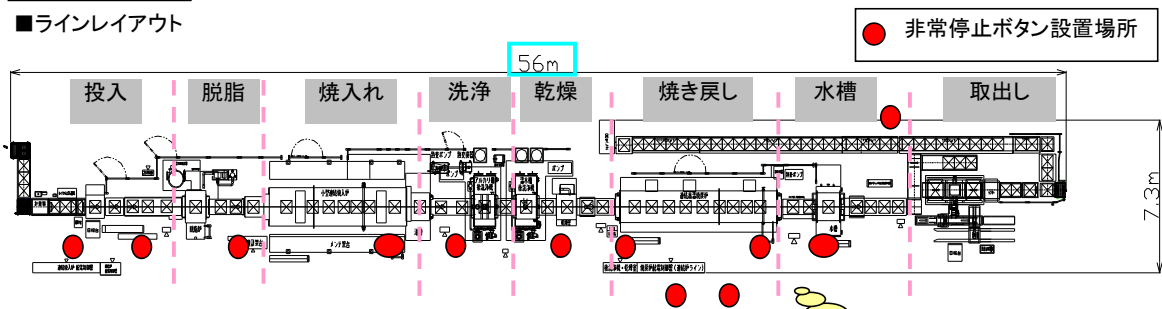


活動内容

災害防止として設備の操作盤には非常停止を設置することで緊急時の対策をおこなっているが、複数台の設備で構成される連続処理装置では工程ごとに非常停止ボタンが複数設置されている。しかし複数設置された非常停止ボタンの設備停止範囲は統一されていないため作業者が緊急時に緊急停止したい範囲が停止させることができない可能性があった。そこで非常停止ボタンの設備停止範囲を「可視化」すべく安全改善活動を行った。

～背景～

■ラインレイアウト

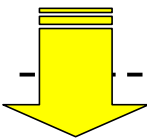


■概観写真



非常停止ボタン
全12箇所！

弊社にて使用している浸炭炉ラインでは、大きく8工程で構成されており全長で56mとなっている。ライン中には非常停止ボタンが合計12個設置されているが、設備の停止範囲は統一ではないため起動させた際に何処が停止するのか不明確であった。

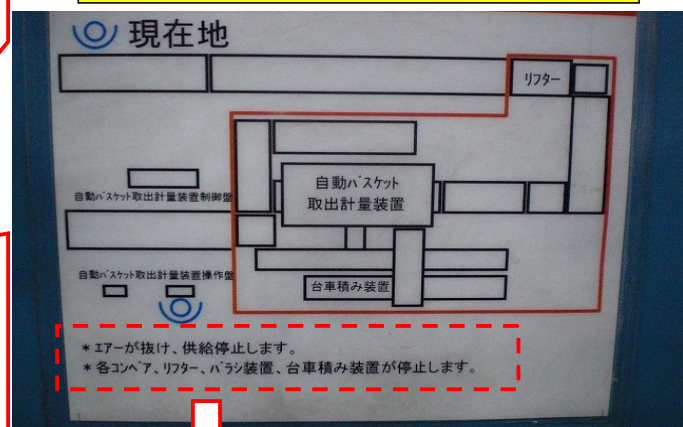


～対策～



非常停止ボタン付近に有効停止範囲を明確にした設備停止マップを掲示することで非常事態に誤認識のない処置が行うことが可能となった。

非常停止の有効範囲を可視化！



- * 各コンベア、扉、エレベータ、炉内ローラ、補助ローラー、リリバーがその場で停止します。
- * 温度制御、ヒーター関係、ファン、水槽制御は停止しません。

更に、非常停止時の条件も明記することで非常停止時の設備動作も可視化した。